

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 23 年 1 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 22 年 10 月～12 月期の実績および平成 23 年 1 月～3 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業＋食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業＋諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業＋食品業部会	30 社	15 社	50.0%
水産業部会	30 社	14 社	46.7%
機械工業部会	30 社	11 社	36.7%
建設業部会	30 社	16 社	53.3%
観光・サービス業＋諸業部会	30 社	19 社	63.3%
合 計	150 社	75 件	50.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況はほぼ横ばい・来期は大幅な悪化見込み－

1. 全体の動き(業況)

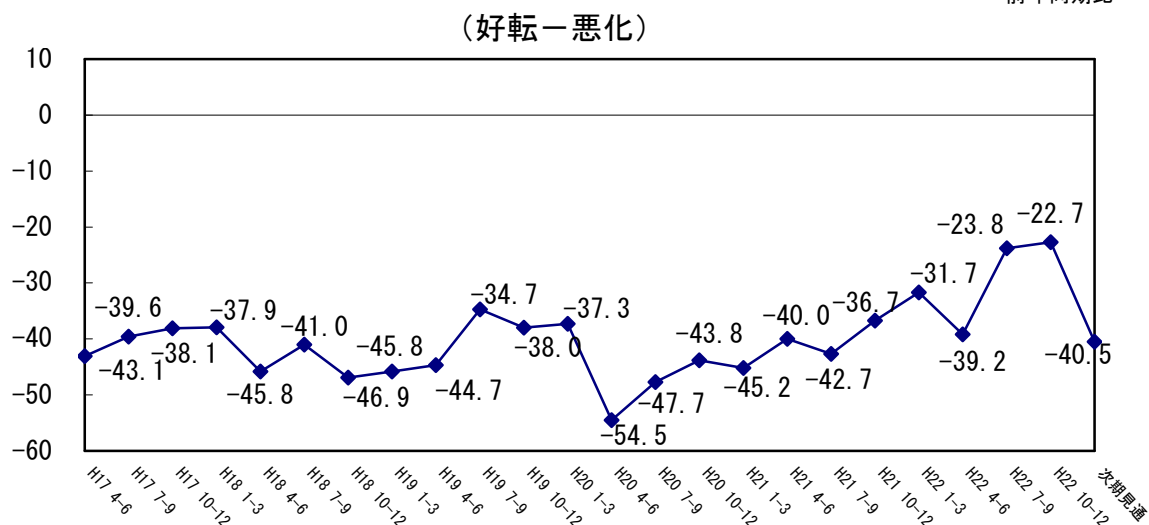
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成22年10月～12月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では△22.7**と前回調査時の△23.8より**1.1ポイント回復**しました。ほぼ横ばいの基調で推移しておりますが、全業種のDI値を見ますと、依然としてマイナス水準からは抜けられず、市内経済を取り巻く経営環境は厳しい状況が続いていると思われまます。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業[前期△35.3→今期△13.3]、水産業[前期△18.2→今期△21.4]、機械工業[前期△6.3→今期+18.2]、建設業[前期△17.6→今期△37.5]、観光・サービス・諸業[前期△34.8→今期△42.1]となりました。今回の調査では、機械工業の指数がプラスに転じており、エコカー補助金最後の駆け込み需要ということでの大きな転換だったことと思います。観光・サービス・諸業および建設業の業況悪化が目立ちます。

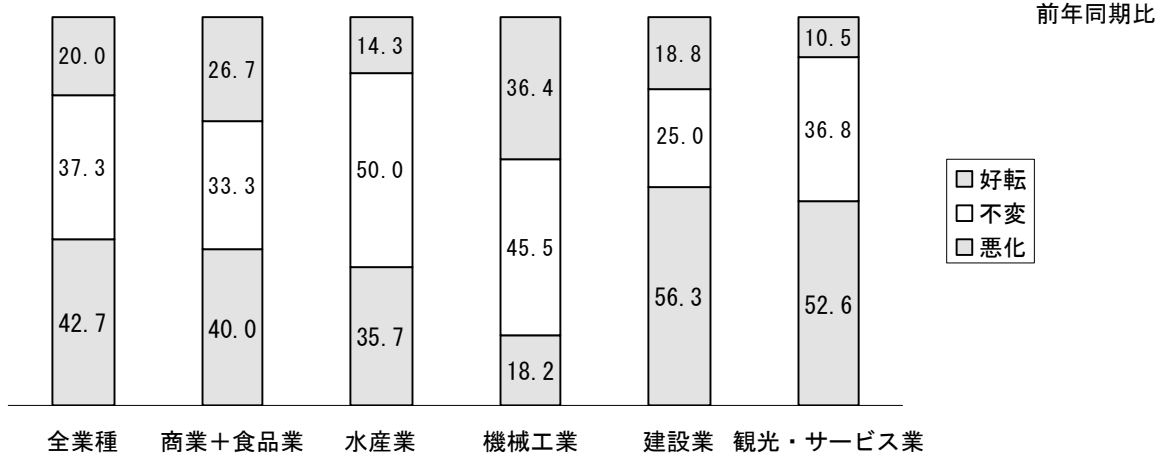
次期(平成23年1月～3月)については、全体では今期と比べて**業況判断DIが17.8ポイント悪化(次期見通し△40.5)**するとの予測となっており、機械、観光サービス諸業を除く業種において業況指数が-50を超え悪化するとの見方が非常に強まっており、年度の終わる3月まで厳しい状況が続くものと思われまます。当所としては来年度以降の経済状況を警戒し、景気対策関連融資を受けた事業所の今後の動向について引き続き注視していきたいと思われまます。次期見通しの明るい材料としては、11月20日より販売が始まり完売した2億3千万円のプレミアム付商品券の経済効果が業況指数に現れることを期待しております。

紋別商工会議所 景気動向調査(業況の推移)

前年同期比



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、「**需要の停滞**」を訴える声が多く寄せられ、人口減の心配や高齢化社会の不安を訴える声も増えています。

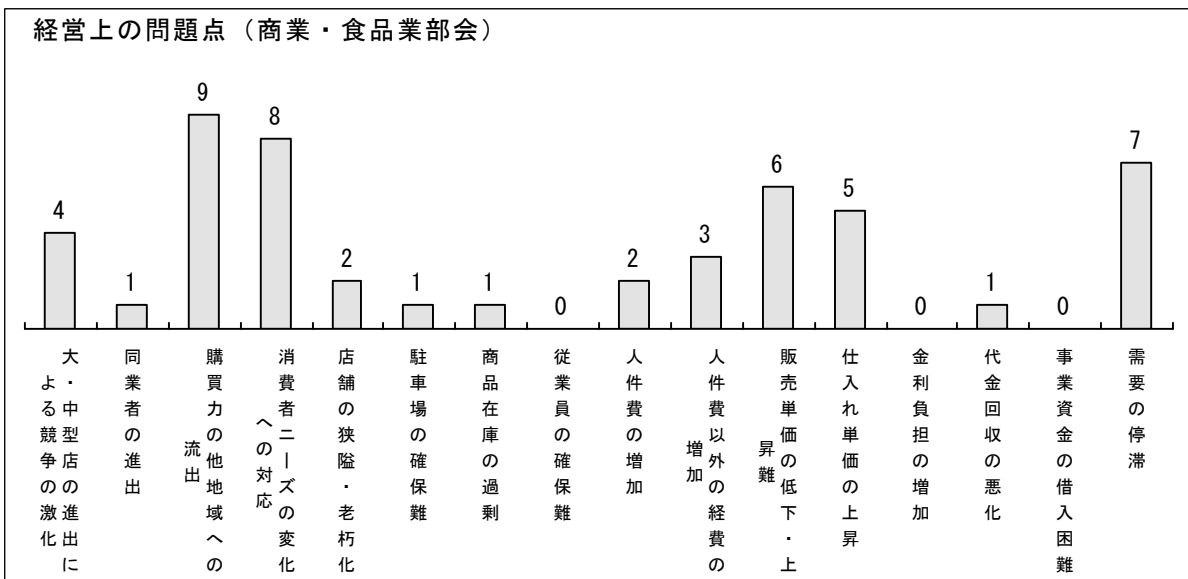
部会別の動向

【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 13.3$ （前期 $\Delta 35.3$ 、来期見通し $\Delta 53.3$ ）〕

業況DI値（前年同期比）は、依然厳しい状況で推移しています。年末商戦は商品券「ガリン」の効果もあり、そこそこ前回見通しよりも良かったものの、次期見通しとしては年末商戦が一段落した後ということもあり、-50を超える悪化指数予想となっております。経営上の問題点としては「購買力の他地域への流出」「消費者ニーズの変化への対応」「需要の停滞」を訴える声が多くなっております。

《業界の問題点等》

- ・卸商社、物流センターの道内からの撤退による仕入から入荷（物理的）に時間がかかる。ショッピングセンター、ショッピングモールへと消費者ニーズが移行。又、どの業界でも消費者がネット販売・通販へシフトされ、専門店の存在感が低下している。マニアックな店舗、カリスマ的人材が望まれている。（小売）
- ・商品券ガリン効果か？12月売上アップ！（小売）
- ・5丁目のサラ地が目についてひどい。見通しがいいほどがら空きです。（小売）

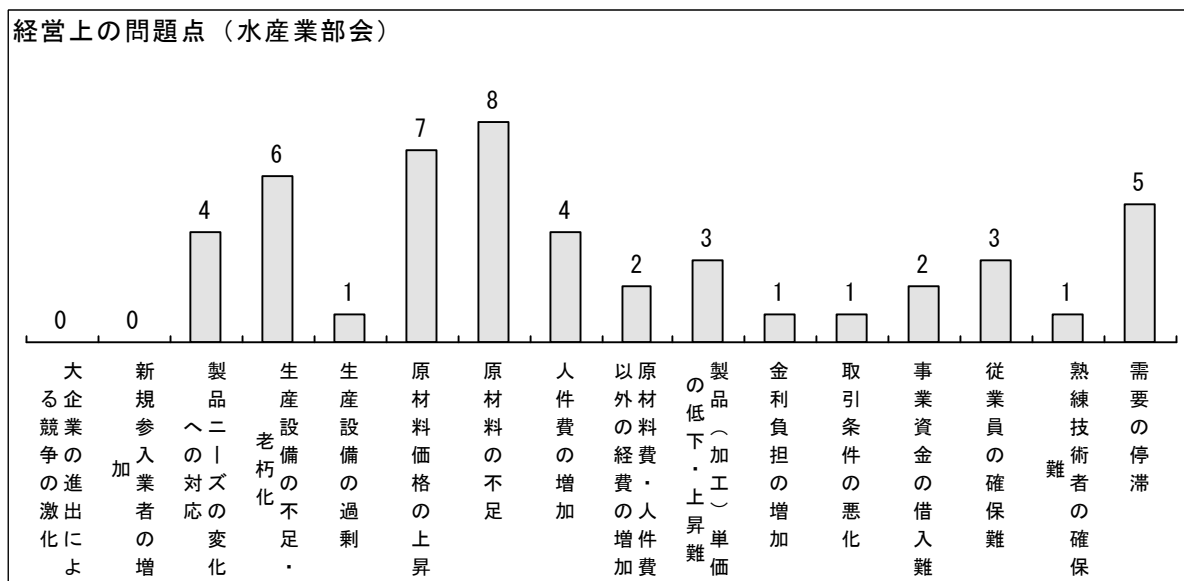


【水産業部会】 [業況判断DI値（前年同期比） $\Delta 21.4$ （前期 $\Delta 18.2$ 、来期見通し $\Delta 50.0$ ）]

業況判断DI値（前年同期比）は3.2ポイント悪化しています。前期報告の際、来期見通しは本格的な水揚げシーズンを期待してプラス回復するだろうとの見通しが出ていたのですが、新聞紙上ではサケの水揚げが非常に良かったという報道があったり、ロシアからのカニの輸入量が昨年の50%以下に下回っており原料不足になっている等々、騒がれており全体的には芳しくないという結果だった。経営上の問題点としては「原材料の不足」「原材料価格の上昇」「生産設備の不足・老朽化」「需要の停滞」を訴える声が多くなっており、来期の見通しもさらに悪化するとの見方が強いです。

《業界の問題点等》

- ・ 原料不足（水産加工）



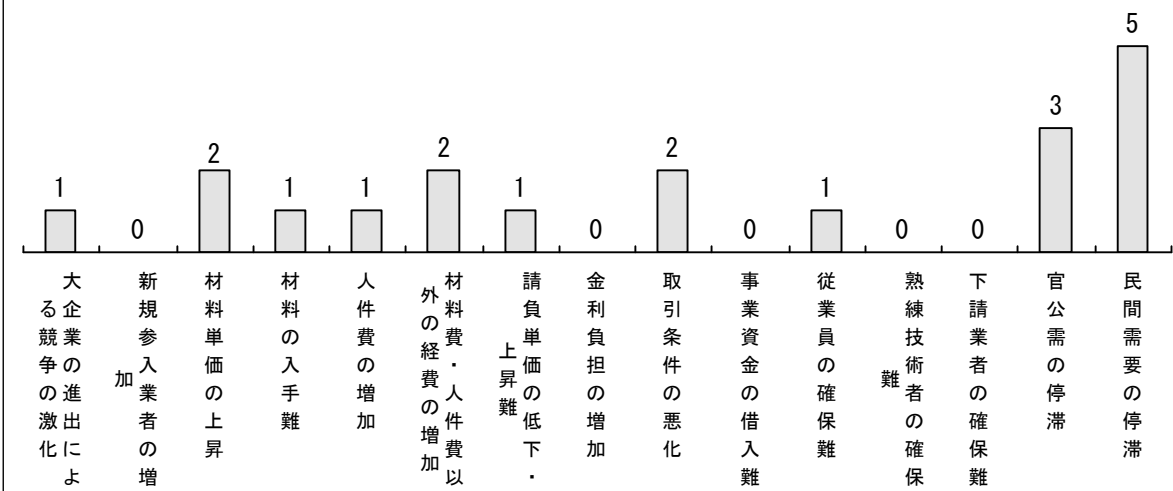
【機械工業部会】 [業況判断DI値（前年同期比） 18.2 （前期 $\Delta 6.3$ 、来期見通し $\Delta 18.2$ ）]

業況判断DI値（前年同期比）は、前期比で24.5ポイントの大幅改善しているが、前期予想ではエコカー補助金効果が薄れ、自動車も生産待ちという状況もあったためか、業況見通しは $\Delta 33.3$ と悪くなるだろうとの予測をしていたものの、実際には9月末までの駆け込み需要がたくさんあり業況改善につながったのではないかと見ています。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「官公需の停滞」を訴える声が多くなっており、次期見通しは反動で悪化するだろうとの見方が強いです。

《業界の問題点等》

- ・ 当面3年間はしんぼう。（機械製造）
- ・ 一般に金融機関の締め付けが厳しくて、苦戦している様です。今後の見通しが見えないのが現状です。（機械卸修理）

経営上の問題点（機械・工業部会）



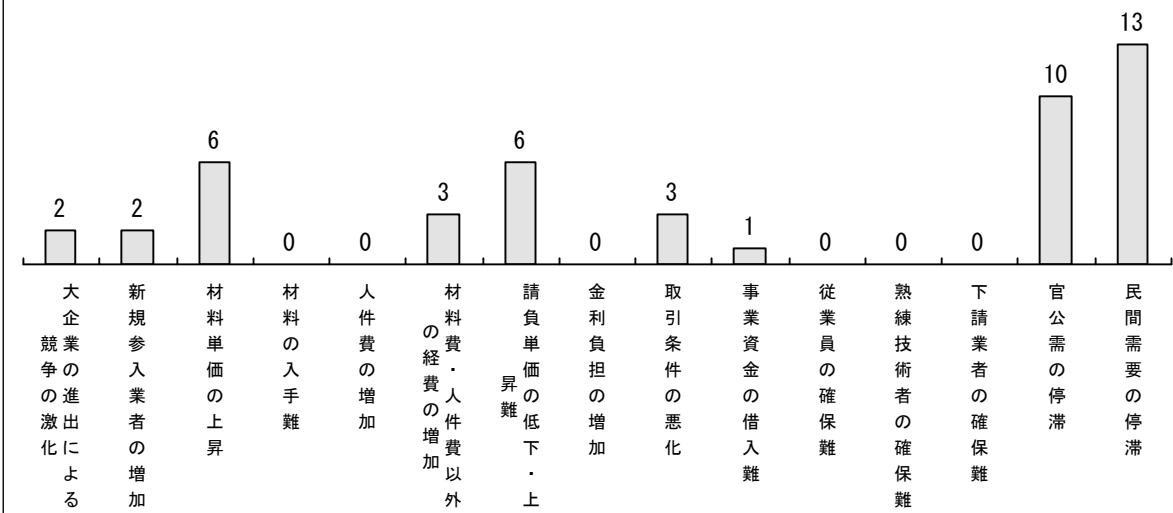
【建設業部会】〔業況判断DI値（前年同期比△37.5（前期△17.6、来期見通し△60.0））〕

業況判断DI値（前年同期比）は前期比19.9ポイント悪化しています。前期の予測よりも業況指数は悪化しており、公共工事の激減により大変厳しい状況となっています。経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「官公需の停滞」を訴える声が多くなっており、来期は極端に仕事の少ない冬期を迎えることもあり、見通しとしてはさらに悪化するとの見方が強いです。

《業界の問題点等》

- ・仕事のなくなる時期に入るので非常に不安。（建設）

経営上の問題点（建設業部会）

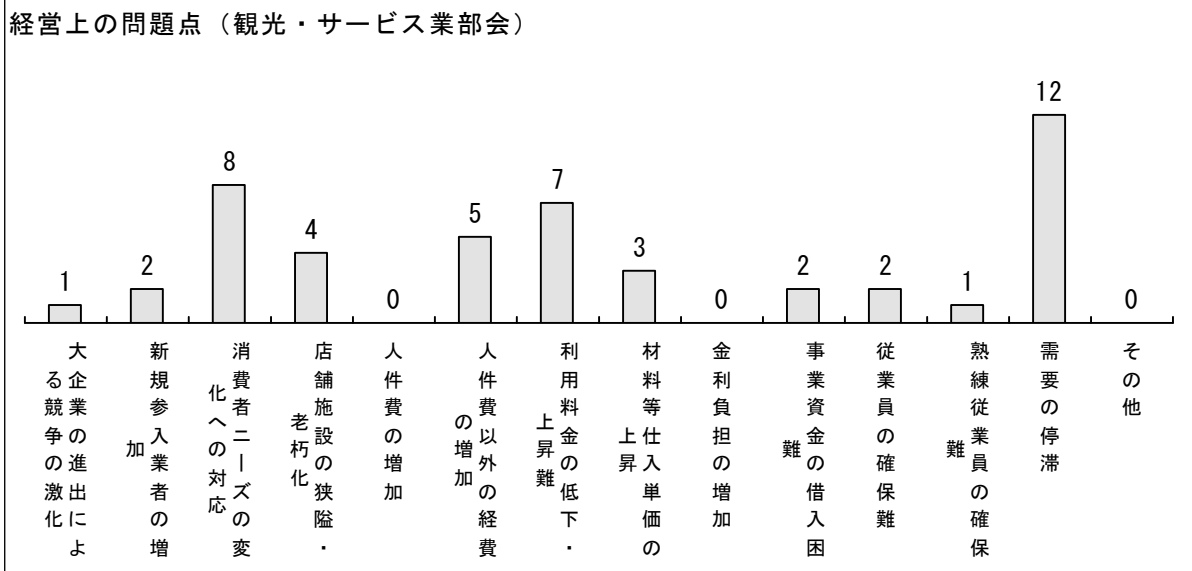


【観光・サービス部会】〔業況判断DI値（前年同期比）△42.1（前期△34.8、来期見通し△21.1）〕

業況判断DI値（前年同期比）は前期よりも7.3ポイント悪化しており、景気の悪さを反映している数字だと思います。忘年会シーズンも今ひとつ盛り上がりには欠けた内容かと思えます。総じて一昔前より宴会等の予約が激減しており時代の変化かという声も聞いております。経営上の問題点としては、「需要の停滞」「消費者ニーズへの変化への対応」「利用料金の低下、上昇難」などを心配する声が多くなっており、来期の見通しは、流氷シーズンで観光客などの入り込み期待で、少し回復するとの見方が強いです。

《業界の問題点等》

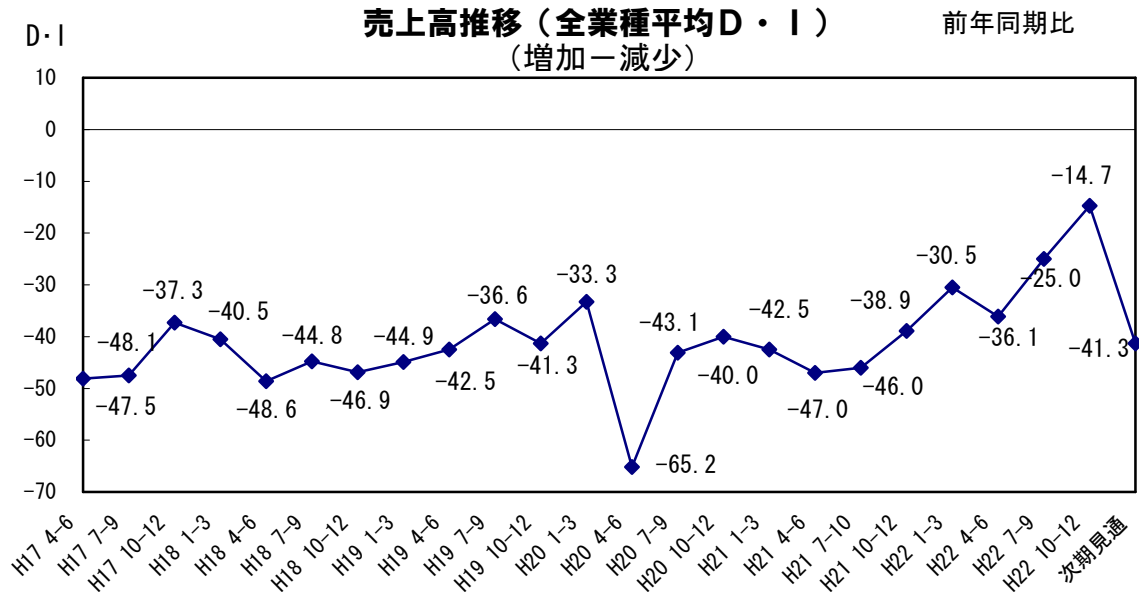
- ・全国的な不景気に加えて、統治の人口の減少とWパンチで今後もサバイバルが続くと思う。(飲食業)
- ・産廃等、業界で団結してやる必要がある時に受け皿の団体が無い…？(飲食業)
- ・人口の減少と高齢化。(サービス業)
- ・商品券ガリン券は売上に貢献して頂いたと感じています。(飲食業)
- ・頼り、頼みの流水接岸するし、観光客様大対応で平均月売上の3倍以上の売上が望めますが、流水が接岸しなければ元のもくあみ。(飲食業)



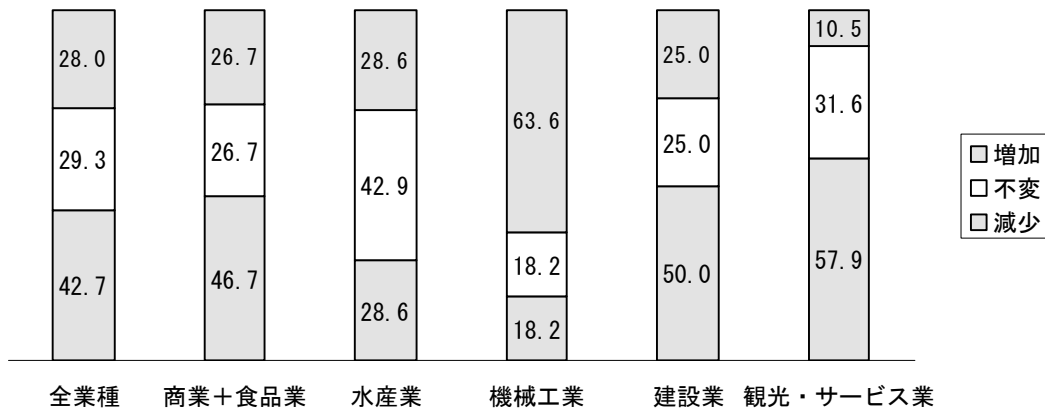
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】(平成21年10月～12月期の水準と比較した今期の売上高)



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均でDI値 $\Delta 14.7$ 〔前回調査時（平成22年7～9月期 $\Delta 25.0$ ）より10.3ポイント改善。〕 機械工業が大幅プラス転換

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 23.5 \rightarrow \Delta 20.0$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 9.1 \rightarrow 0.0$ 〕
 機械工業〔前回 $\Delta 6.3 \rightarrow 45.5$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 35.3 \rightarrow \Delta 25.0$ 〕
 観光・サービス業・諸業〔前回 $\Delta 39.1 \rightarrow \Delta 47.4$ 〕

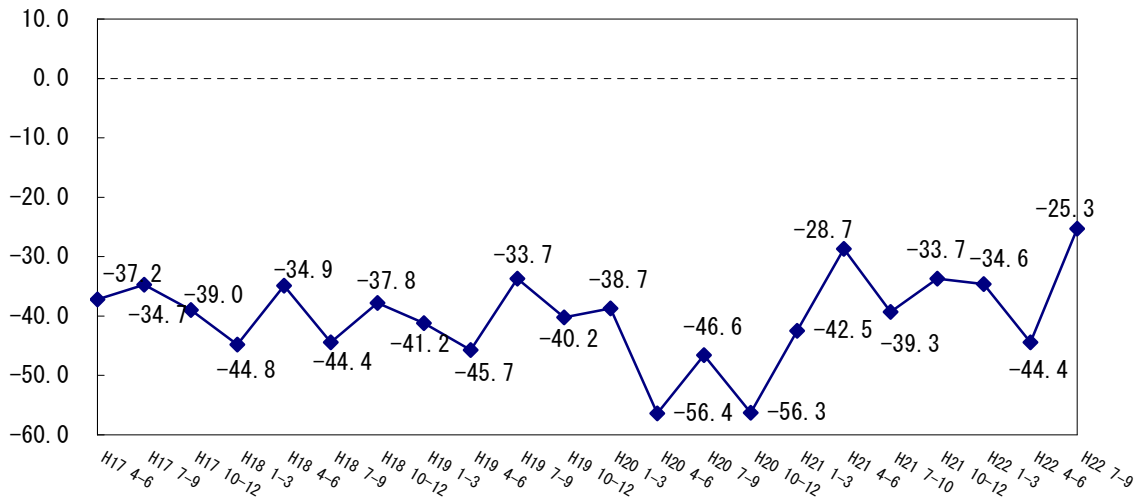
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成21年10月～12月期の水準と比較した今期の採算水準）

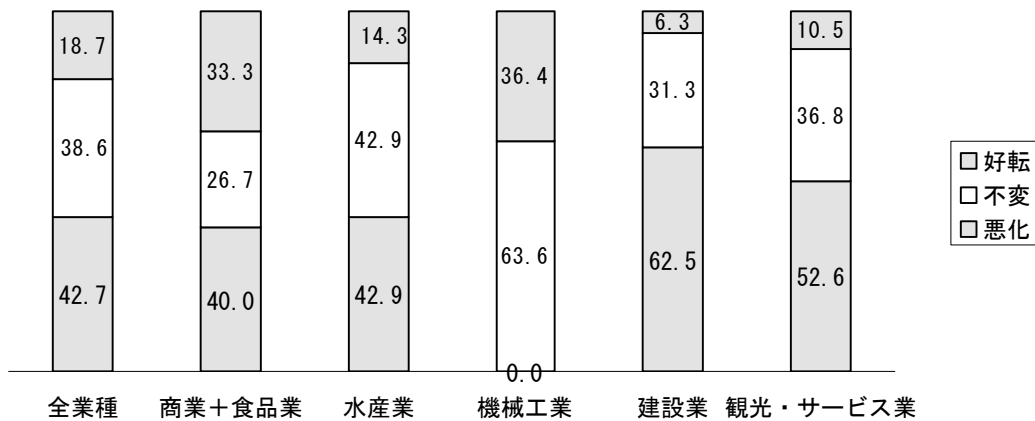
採算推移（全業種平均D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の採算（前年同期比）

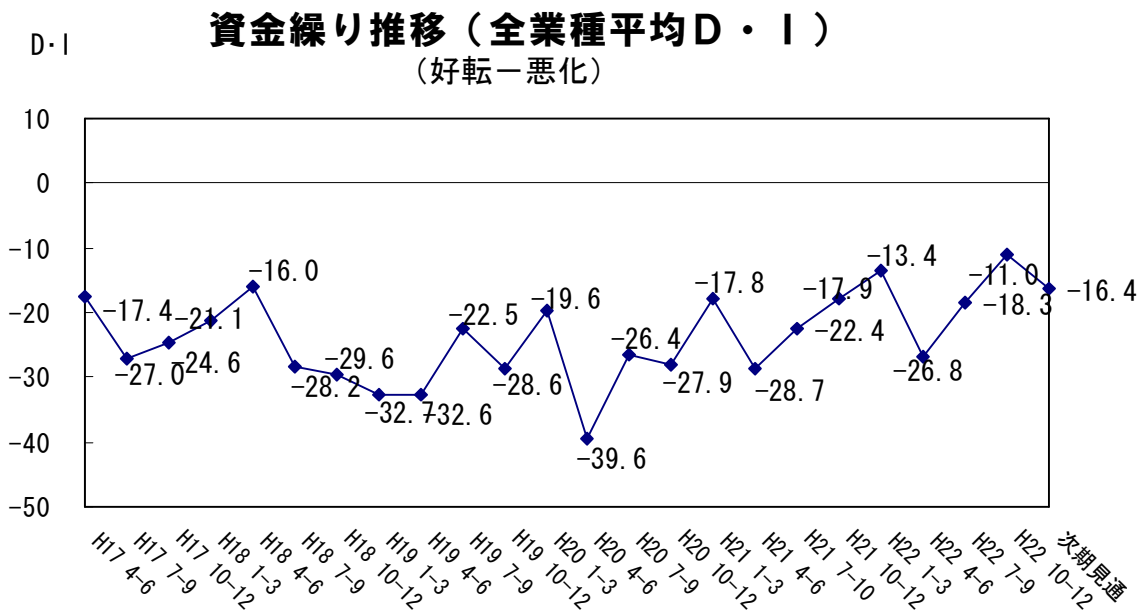


全業種平均でDI値 $\Delta 24.0$ 〔前回調査時（平成22年7～9月期 $\Delta 25.3$ ）より1.3ポイント改善〕
機械工業が大幅プラス転換。

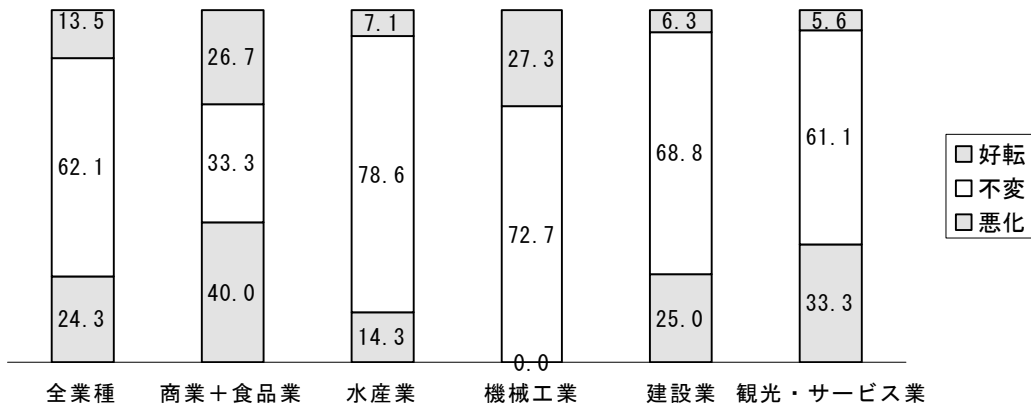
〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前回 $\Delta 17.6 \rightarrow \Delta 6.7$ 〕、水産業〔前回 $\Delta 18.2 \rightarrow \Delta 28.6$ 〕
機械工業〔前回 $\Delta 6.3 \rightarrow 36.4$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 35.3 \rightarrow \Delta 56.3$ 〕
観光・サービス業諸業〔前回 $\Delta 40.9 \rightarrow \Delta 42.1$ 〕

(3) 今期の資金繰り

【前年同期比】（平成21年10月～12月期の水準と比較した今期の資金繰り）



今期の資金繰り（前年同期比）前年同期比



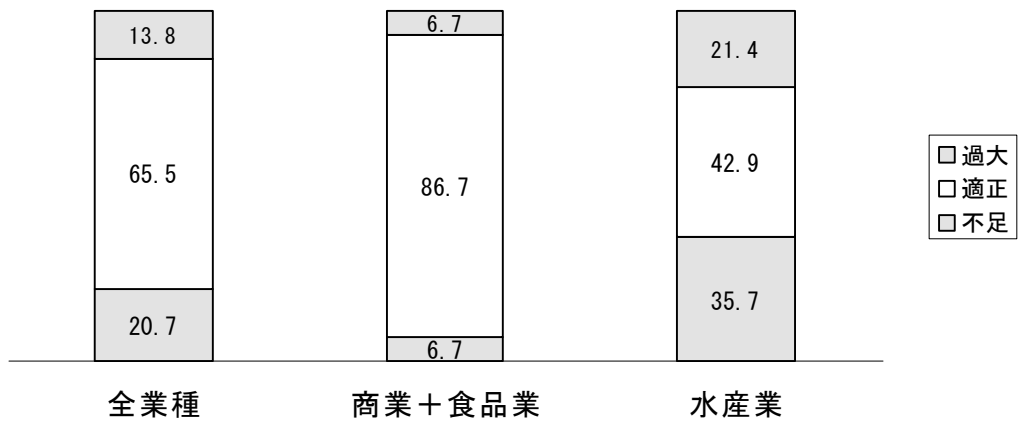
全業種平均でDI値 $\Delta 10.8$ 〔前回調査時（平成22年7～9月期 $\Delta 18.3$ ）より7.5ポイント改善〕
機械工業が大幅プラス転換。

[部会別DI値] 商業・食品業〔前回 $\Delta 5.9 \rightarrow \Delta 13.3$ 〕、水産業〔前回 $0.0 \rightarrow \Delta 25.0$ 〕
機械工業〔前回 $\Delta 18.8 \rightarrow 27.3$ 〕、建設業〔前回 $\Delta 17.6 \rightarrow \Delta 18.8$ 〕
観光・サービス業諸業〔前回 $\Delta 38.1 \rightarrow \Delta 27.8$ 〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成21年10月～12月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）

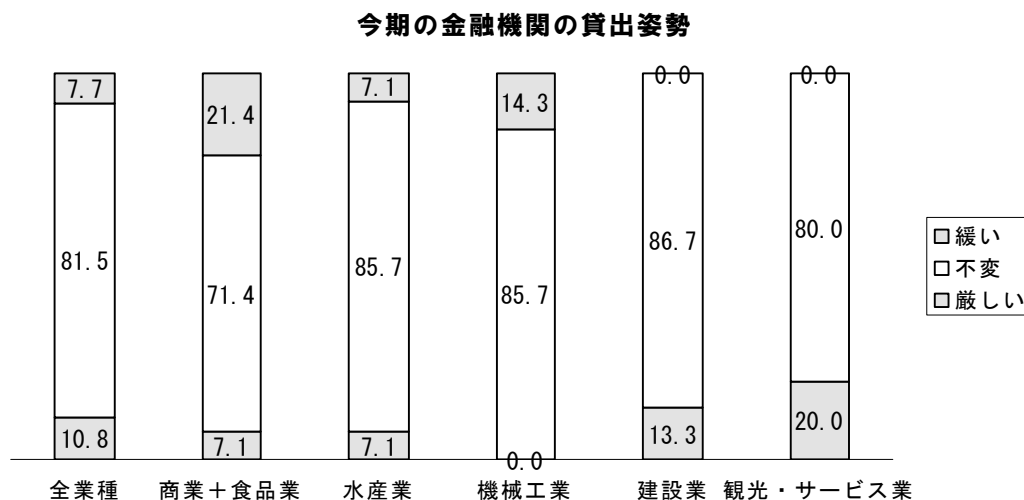


全業種平均でDI値 $\Delta 6.9$ 〔前回調査時（平成22年7～9月期7.2）より14.1ポイント在庫減少〕

[部会別DI値] 商業・食品業〔前回 $11.8 \rightarrow 0.0$ 〕、水産業〔前回 $0.0 \rightarrow \Delta 14.3$ 〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

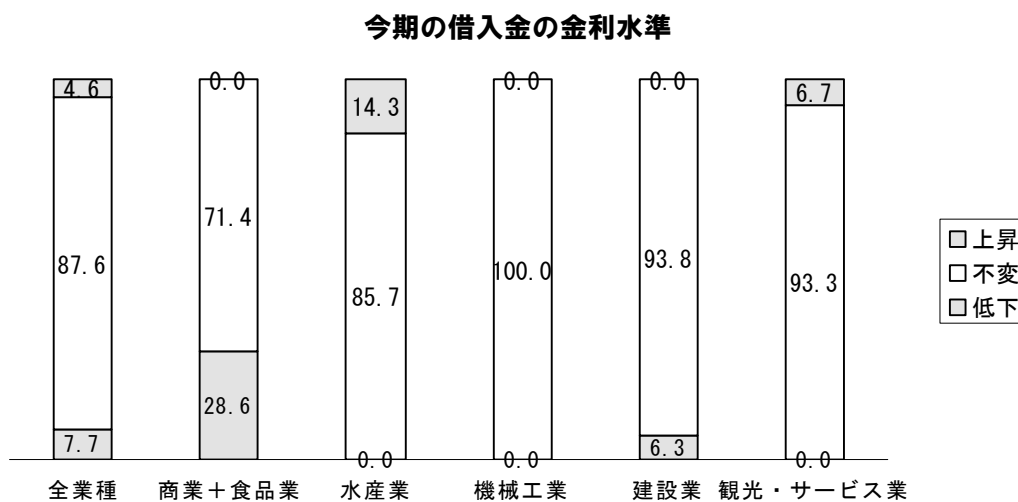
【前年同期比】（平成 21 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）



全業種平均で△3.1ポイント。商業食品業 14.3 水産業 0.0 機械工業 14.3 建設業△13.3 観光サービス業諸業△20.0。

(6) 今期の借入金の金利水準

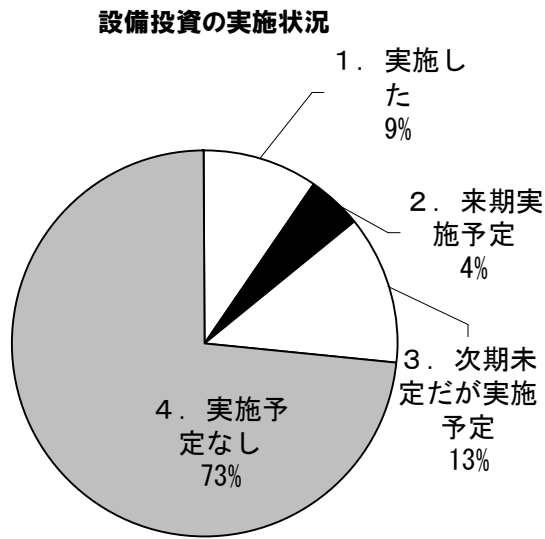
【前年同期比】（平成 21 年 10 月～12 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で△3.1。商業食品業△28.6 水産業 14.3 機械工業 0.0 建設業△6.3 観光サービス業諸業 6.7。

(7) 設備投資の実施状況

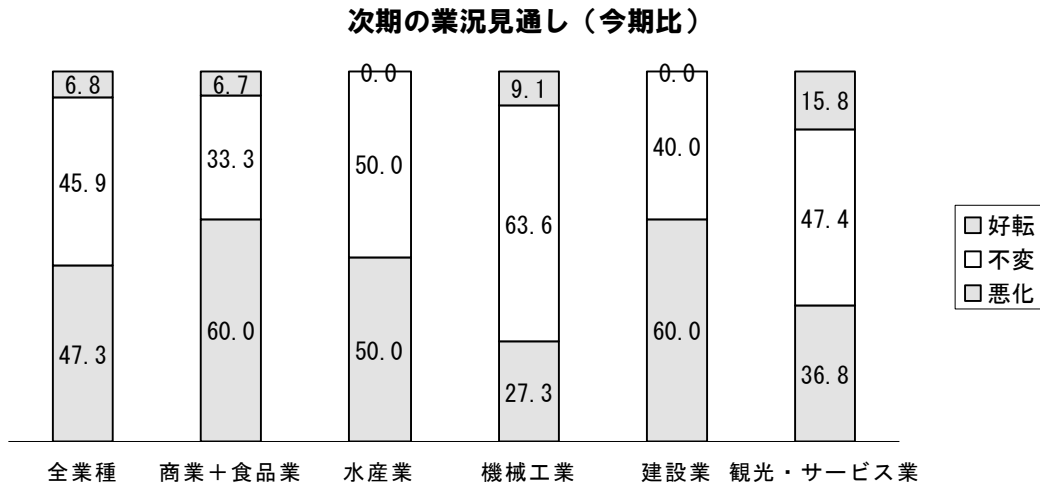
今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について



3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 22 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

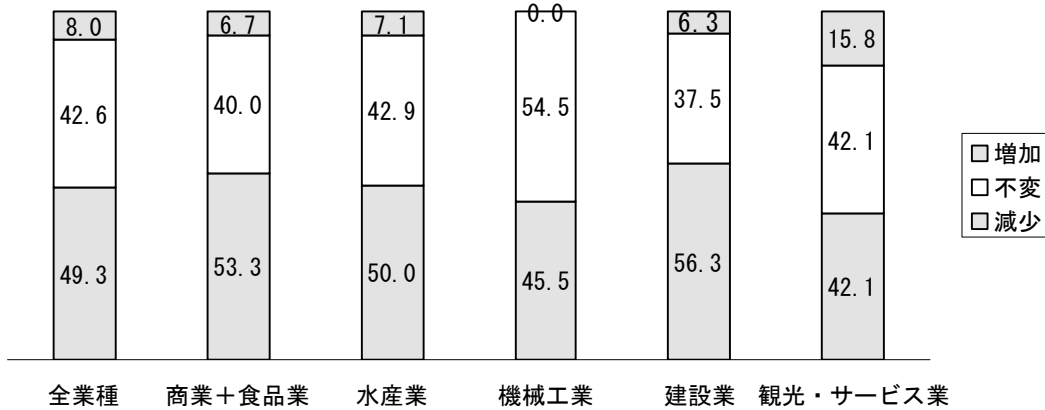


全業種平均 DI 値 Δ 40.5 [今期の業況（前年同期比 Δ 22.7）より 17.8 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 22 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

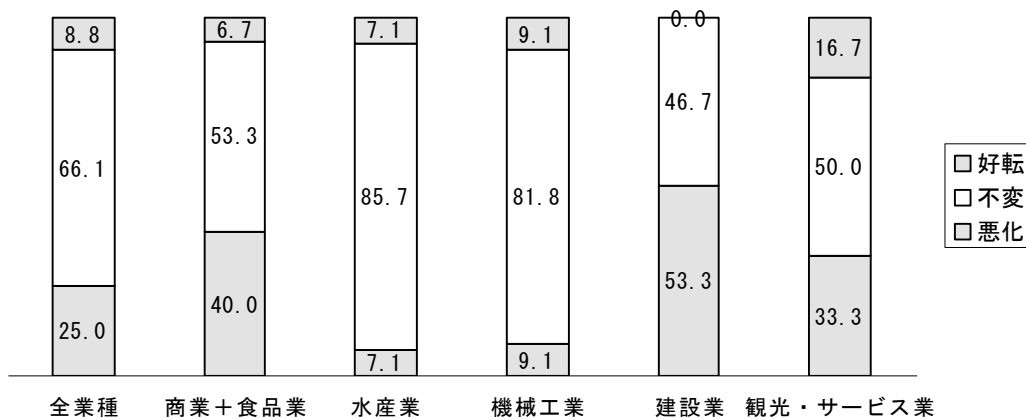


全業種平均 DI 値 $\Delta 41.3$ [今期の売上高・生産高（前年同期比 $\Delta 14.7$ ）より 26.6 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 22 年 10 月～12 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 $\Delta 16.2$ [今期の資金繰り（前年同期比 $\Delta 10.8$ ）より 5.4 ポイント悪化の見通し]

Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サ ー ビ ス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	△22.7	△13.3	△21.4	18.2	△37.5	△42.1
	来期見通し	△40.5	△53.3	△50.0	△18.2	△60.0	△21.1
売上 D・I	今期実績	△14.7	△20.0	△0.0	45.5	△25.0	△47.4
	来期見通し	△41.3	△46.7	△42.9	△45.5	△50.0	△26.3
在庫 D・I	今期実績	△6.9	△0.0	△14.3	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	△24.0	△6.7	△28.6	36.4	△56.3	△42.1
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	△10.8	△13.3	△7.1	27.3	△18.8	△27.8
	来期見通し	△16.2	△33.3	△0.0	△0.0	△53.3	△16.7
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	△3.1	14.3	△0.0	14.3	△13.3	△20.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	△3.1	△28.6	14.3	△0.0	△6.3	6.7
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。